

盛岡市教育研究所 研究指定 中間発表

(令和6～8年度 教育課程一般【学力向上】)

「自ら進んで学び、
協働して考えを深める
生徒の育成」

盛岡市立城東中学校

本日の発表内容

- ▶ 1 本校の概要
- ▶ 2 令和 6 年度の実践
- ▶ 3 研究主題について
- ▶ 4 令和 7 年度の実践
- ▶ 5 成果と課題

1 本校の概要 1

(1) 生徒

- ・全校生徒173名（令和7年12月現在）
(男子69名、女子104名)
- ・学級数・・各学年2、特別支援学級2

合計8学級



1 本校の概要 2

(2) 学区内小学校

- ・城南小学校、山王小学校

(3) 校訓：きびしき自己を鍊(きた)えなん

(4) めざす生徒像

- ▶ **【知】自ら進んで学び、考えを深める生徒**
- ▶ **【徳】自分に誇りをもち、自他を大切にする生徒**
- ▶ **【体】自己を鍛え、たくましく生き抜く生徒**

2 令和6年度の実践

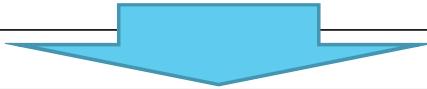
（1）令和6年度の研究主題

「伸び伸びと自己を表現し、
課題に粘り強く取り組むことの
できる生徒の育成」

2 令和6年度の実践

(2) 当時の課題意識（校内研・学調質問紙など）

- ・難しい問題をやろうとする前にあきらめる
- ・集中できる時間が少ない
- ・学習規律が整っていない
- ・授業でのICTの活用が少ない



粘り強く取り組む力、前向きに取り組もうとする力を育てたい。

2 令和6年度の実践

(3) 授業研究会1 (音楽科)

「リズムアンサンブルの制作」

- ・学習シートの工夫
- ・グループ活動の工夫
→生徒同士の支えあい



2 令和6年度の実践

(4) 授業研究会2 (国語科)

「兼好法師のものの見方や考え方をまとめ
(徒然草)」

- ・導入・展開の工夫 (レベル別の選択式課題)
- ・個別解決の時間の確保

課題を早くあきらめがちな、苦手であろう生徒も、最後まで意欲をもって取り組めた。

2 令和6年度の実践

(5) 生徒会の取組

- ・応援活動の活性化
- ・目安箱投稿への積極的返答
- ・体育館ありがとう集会（全校レク）



学校への所属感、仲間意識が高まる

2 令和6年度の実践

(6) 学力向上にむけた取組（3学期）

- ・振り返りタイム
→ 生活記録ノートに1日の学習を記入し振り返る
- ・ねばねばタイム
→期末テスト前の3日間
放課後20分の教えあい学習



2 令和6年度の実践

(7) 令和6年度のまとめ

生徒が学習を粘り強く取り組むためには、適切に生徒がつまずきを乗り越えられるような手立てが必要であると考える。研究授業では、グループ活動や課題の選択などの手立てを組んでおこない、有効であった。3学期に行った放課後学習では、生徒同士が協力して学習する時間を設定することで、つまずきを乗り越えようと意欲的に取り組む場面が多くみられた。

令和7年度は「協働的な学び」に着目する。

3 研究主題

「自ら進んで学び、
協働して考えを深める
生徒の育成」

3 研究主題について

(1) 本校のめざす生徒像と育成すべき資質能力

(本校学校経営概要より)

生徒像 資質 ・能力	めざす生徒像		
	【知】 確かな学力 自ら進んで学び、考えを深める生徒	【徳】 豊かな心 自分に誇りをもち、自他を大切にする生徒	【体】 健やかな体 自己を鍛え、たくましく生き抜く生徒
個別の知識技能	<ul style="list-style-type: none">基礎的、基本的な学習内容を身につけている。課題解決に必要な手順や方法を身につけている。	<ul style="list-style-type: none">生命の尊さや一人一人の権利を正しく理解している。あいさつや礼儀等の基本的習慣が身についている。	<ul style="list-style-type: none">健康な生活のために必要な知識を身につけている。事故、災害の原因や防止について理解している。
思考力・判断力 ・表現力 (協働する力)	<ul style="list-style-type: none">相手の考えを理解し、調整整理できる。物事を多面的にとらえ、比較、振り返りができる。	<ul style="list-style-type: none">互いの考えを尊重しながら、他者を認めることができる。コミュニケーションを取り、折り合いをつける。	<ul style="list-style-type: none">立場や背景の違う人と周りを見て調整しながら行動できる目標達成のために役割を果したり、助け合う。
学びにむかう力、人間性 (粘り強さ)	<ul style="list-style-type: none">意欲を持って学習に取り組む。自らの学習を振り返り、工夫しながら学習に取り組む。	<ul style="list-style-type: none">間違いや失敗にも意欲を失わず再挑戦する。自分の意思をしっかり持ち自己決定する力。	<ul style="list-style-type: none">大変なことでも粘り強く取り組み、最後までやり遂げる先を見通し、前向きに取り組む。

3 研究主題について

（2）協働する目的

個人の力だけでは解決できない課題について、複数人で取り組むことによって、新たな気づきを得て、生徒自身の考えが深まることを目的とする。

3 研究主題について

(3) 生徒の状況をふまえての目標設定

授業で自分の考えを深めたり、広げたりしている
児童、生徒の割合（積極的回答）

令和6年度全国学力調査（3年）・・・84%

令和6年度県学力調査（2年）・・・60%



令和7年度目標（全校アンケート） 80%

3 研究主題について

（4）教職員全体で取り組むこと

- ① 校内研究会で教科ごとの取組の実践交流、相談を行う。
- ② 授業の課題解決、または、まとめ場面で協働的な学びの場を意識して設定する。
- ③ 授業や単元のまとまりごとの振り返りにおいて、生徒が自分の考えが深まった点を記述させたり、口頭で発表させたりする。

4 令和7年度の実践

(1) 協働的な学習についての実践交流

教科	実践で意識していること
国語	<ul style="list-style-type: none">・協働の様々な形態・意見が分かれる課題に対する協働、簡単に答えられない課題に対する協働、つまづきを確認するための協働
数学	<ul style="list-style-type: none">・個人で解き、ある程度時間がたつたら班の活動にする。わからない問題では立ち歩きOKで聞きに行く。・「個」→「共有」→「個」の流れ。・ICT (PDF) でプリントを配布し、提出させて共有化。
社会	<ul style="list-style-type: none">・ペア活動、グループ活動を多く取り入れ、答えを見つける活動ではなく、「なぜ」を考える活動や自分の考えを交換する活動
英語	<ul style="list-style-type: none">・ペア、グループで活動を行う際に目的を生徒と共有化。
理科	<ul style="list-style-type: none">・事前実験（演示）からわかるることを共有（班で話し合い）、実際に実験をして話し合い。正しい結果を見て、個人で考察を修正。
音楽	<ul style="list-style-type: none">・班を主体に話し合い、意見をまとめて発表する。
美術	<ul style="list-style-type: none">・アイディアスケッチについて、お互いのアイディアについての良さやさらに良くするための話し合い。・1年の「色の学習」で彩色した際に2～3人で一枚の画用紙を彩色。少人数で話し合いながら色を作った。（共同制作）・評価の面で課題があったため、今年は「個」で彩色とした。
保健体育	<ul style="list-style-type: none">・自分の感覚と実際のずれや習得しきれていないコツを、他者との協働で修正したり深めたりしている。・ペアを作り指定した技に取り組む演技を撮影。お互いにアドバイスしあう。
技術家庭	<ul style="list-style-type: none">・展開の工夫 「個」→「個の調べ」→「話し合い、共有」→「個の深まり」・集団の組み方 出席状況で3～4人のグループを組んでいる。

4 令和7年度の実践

(2) 生徒の具体的な姿についての意見交流・学習場面ごとの整理

学習場面	生徒の具体的な姿	教師の手立ての例
A 課題をつかむ場面	・既習事項を振り返り、学習課題を把握（理解）している。	・導入の工夫 ・教材の精選 ・既習事項・課題解決の手立て（見通し）を確認
B 知識・技能を身につける場面	・仲間と一緒に問題に取り組んだり、技能や知識を習得、発想したりしている。	・ペア等での問題練習や技能練習をする ・ミニティーチャー
C 自力解決、個の調べ学習の場面	・自分の考えをもち、相手に伝える準備をしている ・根拠をもって、理由を言える。	・個別解決の時間を確保。 ・自分の考えを持つ、自分の考えを表現する活動（文字や図で表す、話す、動作、演技を見せる）
D 共有する場面	・相手から伝えられた事を受け止める。 ・相手の考え、演技、技能について、自分の感じたことを伝える。 ・ <u>（本校の経営の基本方針）</u> 相手の考えを理解し、調整・整理できる。	・疑問点を質問、意見を交換、考えを比べる等をして、考え方を見直し、深める協働活動（主に課題解決の場面） ・班の話し合いでまとめた意見を発表。 ・相手の考え方や演技、作品にアドバイス。 ・グループで意見を交流する
E 個が深める場面	・他の人の考えと自分の考えとを比べ、広げている。 ・ <u>（本校の経営の基本方針）</u> 物事を多面的にとらえ、比較、振り返りができる。	・個別解決の時間の確保 ・課題のまとめを書く、または表現する。 ・振り返りを書く
F 考えを広げる場面	・新しい思考や判断の仕方を身につける ・新たな考え方や発想で学習を継続していきたいと思う。	・アイディアの出し合い ・ブレーンストーミング

4 令和7年度の実践

(3) 教科の実践

- ・授業研（数学・社会）
- ・互見授業（一人一授業）
- ・単元内自由進度学習の取組
(数学、盛岡市教育研究所との連携)

→実践事例を紹介

4 令和7年度の実践（数学）

授業研究会 1（1学年数学・1次関数）

【目標】

- ▶ 1次関数のグラフを、切片と傾きをもとにかく方法を説明することができる。
- ▶ 表・式・グラフを相互に関連付けて考え、説明することができる。

4 令和7年度の実践（数学）

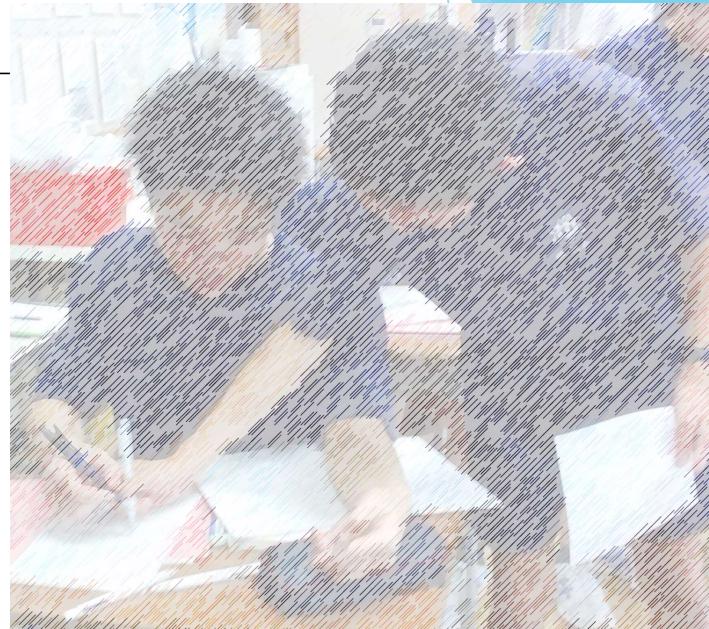
☆生徒の具体的な姿にせまる手立て

B（知識・技能を身につける場面）

→問題演習の際に、先に正解した生徒が
ミニティーチャーとして教える。

D（共有する場面）

→1次関数のグラフを簡単に書くためにはどのようにすればよい
か説明するため、グループで考えを交流する。



4 令和7年度の実践（数学）

☆成果や課題

- ・前時の復習をロイロノートのゲームモード（クイズ機能）を使った導入が効果的であった。
- ・B（知識・技能を身につける場面）では、ミニティーチャーにより、数学が苦手な生徒が教えてもらいながら、最後まで取り組むことができた。
- ・本時で子どもたちに何を考えさせるのかをさらに吟味するとよい（思考する場面）
- ・ビフォーアフターの変化を可視化させたい（できるようになった・深まった）

4 令和7年度の実践（数学）

☆表・式・グラフを相互に関連付けて考え、説明することができる。（生徒の提出シートより）
あいまい、抽象的な説明

式からグラフを簡単にかく方法は
・切片と傾きを考えて点を打って
線を引く



手順等を示し、洗練された説明

式からグラフを簡単に書く方法は
①切片を見つけ点をうつ。
②傾きは分母の数だけ右に、分子
の数だけ上（下）に点をうつ。
③直線を引く。

式からグラフを簡単に書く方法
1. $y=ax+b$ のbの数を座標に直し
て切片に点を打つ(y軸)
2. 変化の割合aを分数で考えて、
分母は左右の動き(x軸)で分子
は上下の動き(y軸)で点を打つ
3. とった点を通るように線を引
く

4 令和7年度の実践（社会）

授業研究会2（2学年社会 地理・近畿地方）

【目標】

- ▶ 京都では街並み保全（町屋改修）と、人々の住みやすさ（マンション建設）のうち、どちらを優先に考えたほうがよいのか、自分の考えを持ち、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ▶ 近畿地方について、課題を主体的に追求しようとしている。

4 令和7年度の実践（社会）

☆生徒の具体的な姿にせまる手立て

- ・A（課題設定の場面）

→現代社会の課題であり、答えが決まっていない問いを考える

- ・C（自力解決の場面）自分の意見を持つ

→補助プリント資料を根拠とし、自分の意見をもつ

- ・D（共有する場面）考え方を広げる

→自由交流でほかの人に考え方を伝える、他の人の考え方を聞く

4 令和7年度の実践（社会）

☆成果や課題

- A（課題設定の場面） → 実際のニュース動画を活用し、生徒の意欲が高まった。
- C（自力解決の場面） → 様々な立場の人の考えを示すことで、多面的・多角的に意見を組み立てることができた。
- D（共有する場面） → 今回は自由交流だったが、別の共有方法も考えられる。適切なグループ分けで、同じ考えの人同士で考えを深めたうえでの交流など。
- 考えが深まったかどうかは「振り返り」で見取る。最初の考えと変わったのか、考えが変わらなかったのかなどの視点で、記述量も大事。

4 令和7年度の実践（社会）

考え方を深めた振り返りの例

私はマンションがいいと思いました。人口が減り、たらモビリティもないのですが、それで人口が減るというはマンションを建設すべきと思いました。〇〇さんの、マンションを建てて、その売却で、個人的にマンションと町家どちらに住みたい？町家をたどるといういきんに身にこなしました。とせかれてからマンションに住みたかったです。

町家とマンションどちらにもメリットとデメリットがあつて、どちらのが難しかったです。町家派のとて文統いてみて、観光客が増える、日本の文化を守るなど、様々な説得力が高、意見がたくさんあって良い学びになりました。

人口減少が続いているから町を建てた方が経済的にも活性的にも町つたまつるけれど、昔ながらの京都の町並みを残しても、歴史は国の財産なので意見は変わらず、町屋の方が観光面でも町つたまつる。歴史は国の財産なので意見は変わらず、町屋の方が観光面でも町つたまつる。

4 令和7年度の実践（互見授業・各教科）

○ 共通実践

- ・学習場面による「生徒の具体的な姿」「教師の手立ての例」を意識した実践

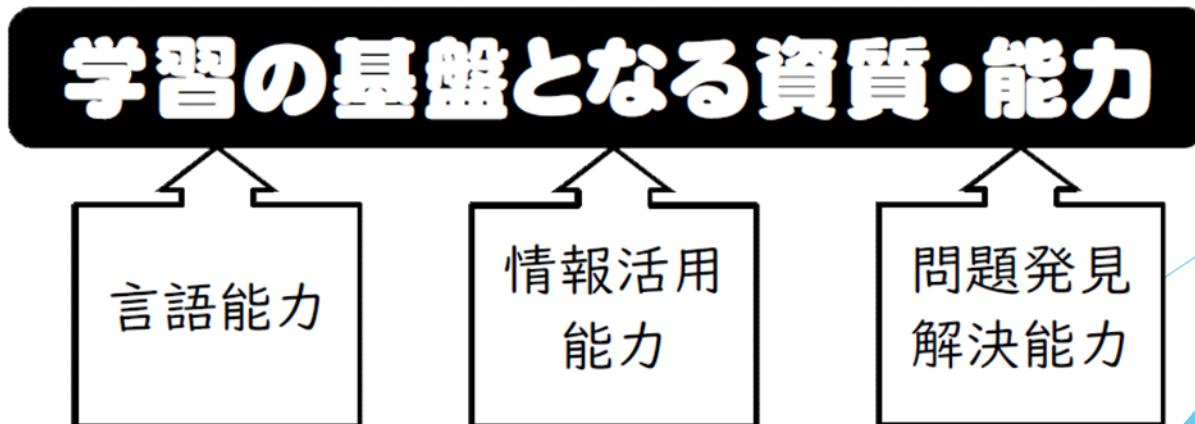
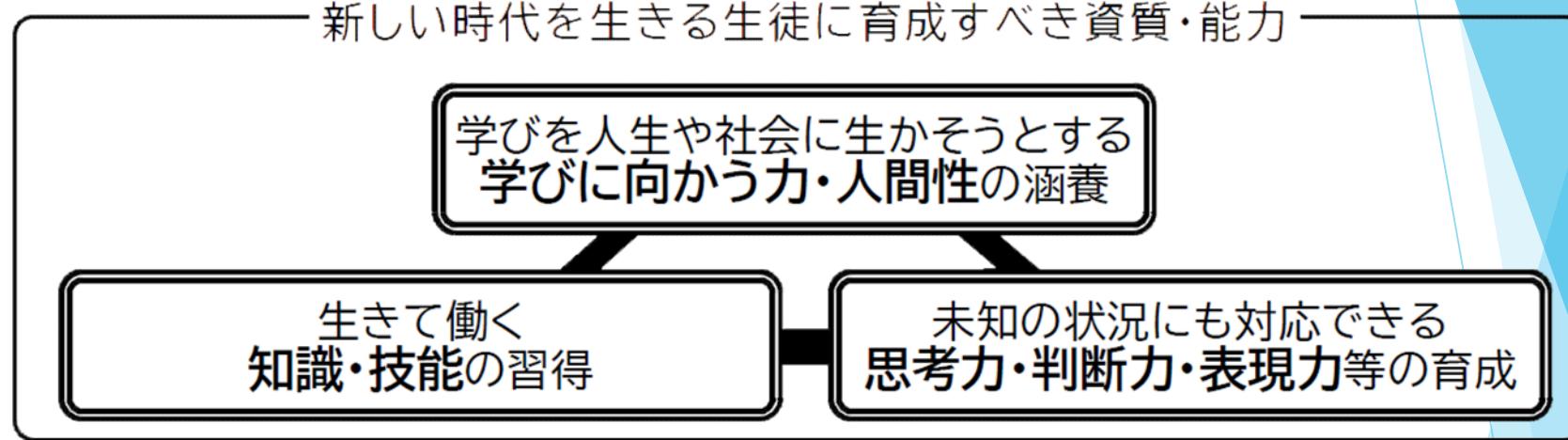


4 令和7年度の実践（互見授業・各教科）

○ 共通実践を振り返って

- ・学習場面を意識しての授業としたため教科、単元などの特徴を生かした実践となり、研究を深めることにつながった。
- ・どの教科でもPCの活用を意識したこと、生徒のPCの取り扱いがスムーズになってきている。
- ・教員の研究内容の理解と他の教員の授業からの学びができた。

4 令和7年度の実践（数学・単元内自由進度学習の取組について）



主体的な学び・対話的な学び・深い学びの実現

実現の手立て

単元内自由進度学習

一体的な充実を目指す

個別最適な学び

指導の個別化

一定の目標をすべての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

～手立て～

- ・1単位時間あたりに進める学習内容を例として明示する。
- ・単元ごとの学習内容及び目標を提示する。
- ・個別の支援を行う。

「一定の目標」→単元の内容を理解すること

学習の個性化

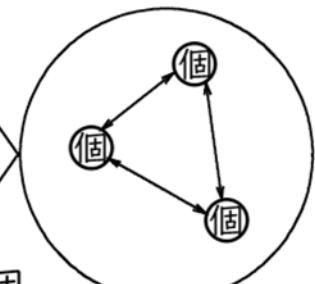
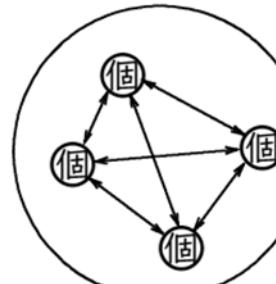
異なる目標に向けて学習を深め、広げる

『孤立した学び』に留意

～手立て～

- ・D教科書の活用
 - ・ペア学習、グループ学習
 - ・学習動画 etc
- ⇒自分にとって学びやすい手段を選択して学習を進める。また、
「異なる目標」⇒自分で決定した学習進度・目標

協働的な学び



個→集団→個

互恵的な学びから、知識を相互に関連づけ、統合・発展させ、深める

～手立て～

- ・ペア学習、グループ学習を通して学び合いを進める。その中で、互いの良さを認め合い（批判はしない、ブレーンストーミングのイメージ）、相手の知識から得られた考えを自分の知識に加え、深化する。

生徒と
教師

協働的な学習の土台
(学級経営等を通して育まれた人間関係)

生徒同士

1. 自由進度学習の捉え

今回の実践をするに当たり、自由進度学習とは何かについて、参考文献をもとにまとめてみました。

昨今の自由進度学習の実践は2つに分かれているとのことです。

第一はいろいろな仕掛けを用意し、躓いたら教師の代わりにサポートする教材を用意しているものです。但し、準備にかかる労力が多くなります。また、仕掛けが多すぎると、生徒の自由度が奪われてしまい、自由進度といえなくなってしまいます。

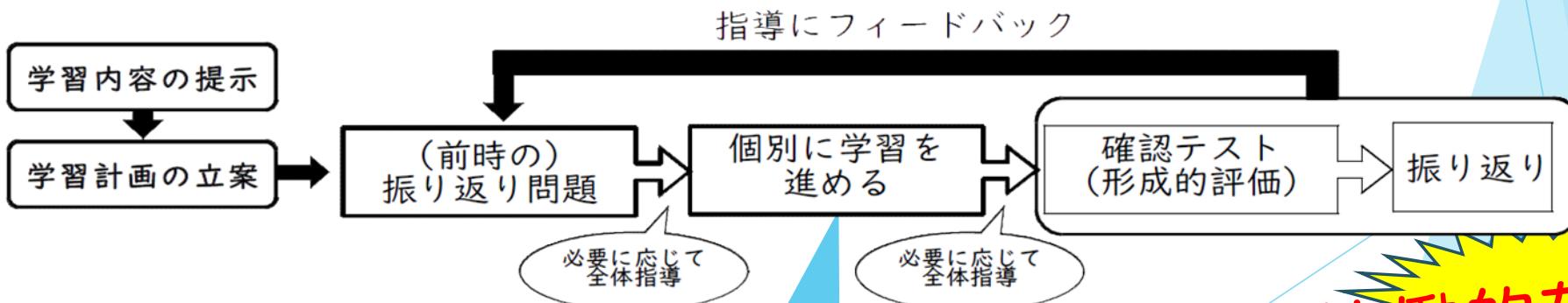
第二は子どもを信じて自由のレベルを高めた実践です。個々の生徒の中には自由をうまく活用できる生徒もいますが、できない生徒もいます。校舎のような生徒は、自由にすると遊びだしてしまう可能性もあります。また、コントロールしようとすると、第一の実践に移行し、そのままにすると放任となってしまいます。

(参考文献：西川純 「『学び合い』ができる！今日からはじめる自由進度学習 学陽書房）

	第一の方法	第二の方法
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 教師が学ばせたい内容を学習させられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導・学習の個性化といつ個別最適な学びが実践できる。
自由度	<ul style="list-style-type: none"> 低い 同質性重視になりかねない。 教師側の負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 高い 放任等になってしまうリスクがある。 何を学習すれば良いかわからず、学習に向かえない生徒が出現する可能性がある。

それぞれにメリット・デメリットがある

第一の方法をとりつつも、ここに『学び合い』の場面を取り入れた自由進度学習を実践



『学び合い』『教え合い』の場面を設定

協働的な学び

単元内自由進度学習について

教師の思いや願い、
身についてほしい
力について伝える。

1. 学習の目的

- ・「自律」と「自立」
- ・自分とクラスが成長する

2. 想い・願い

- ・みんなは、日々成長できます。
- ・みんなは、「学ぶ力」と「学んで成長したい、できるようになりたいという気持ち」を持っています。
- ・みんなは、うまくいかないことがあっても、それを生かして成長することができます。
- ・みんなには、自分に合った学習の仕方を見つけることができるし、それができるようになってほしいと願っています。
- ・みんなは、難しいことでも、協力して解決することができます。
- ・みんなには、他の人の良さに気付いてそれを尊重し、協調する力を高めてほしいと願っています。

3. 共通目標

- 「確認テストの問題を全員が正解すること」 (出題内容は教科書のなかから…)
- 「確認テスト」のレベル (同じ問題 数値だけ違う 应用問題)

4. 授業の進め方

- ・一斉での説明はありません。
- ・今日から5時間の予定で、大きく4つの内容について学びます。
- ・どれをどこまで進めるか、計画を立てていきます。
- ・終わり5分で、簡単な振り返りを行います。
- ・問題を解決する方法は自由です。自分に合った方法や最善だと想う方法で行動してください。
- ・4つの内容すべてが終わったら、共通目標を達成のための最善の方法をとってください。
(例:教科書の巻末問題を解く、e-ライブラリに取り組む、ワークに取り組む、困っている仲間に協力するetc)

授業の進め方を
確認する

5. 毎時間大切にしてほしいこと

- ・全力を尽くす！
- ・自分で考える & 仲間の考えを取り入れて、考えをより深める。
- ・粘り強さと自己調整
- ・自律（自分をコントロール）と自立（自分にとってベストな方法を自分で選択して行動）
- ・自分のペース
⇒時間がかかるてもしっかり理解することが大切！進める人はどんどん進めよう！
- ・楽しむ！ラス問を攻略して、みんなで達成感を味わおう！

進め方の
目安を提示

3章 方程式を利用して問題を解決しよう ~2次方程式~

学習内容			評価規準	
学習項目	教科書での問題	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 畑に通路をつくろう ～道の幅を何mにする？～	P85 ～86	①・②・③・④・⑤・⑥	○2次方程式を利用して問題を解決するときの手順を理解している。 ○具体的な問題の中から数量の間の関係を見いだし、2次方程式をつくることができます。	○具体的な問題の解決に2次方程式を活用し、解が適切であるかどうかを判断することができる。 ○2次方程式を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
② 数値に関する問題を解こう ～条件に合う数を求めよう～	P87	例1・問1・数学のまど		
③ 図形に関する問題を解こう！ ～紙の長さを求めよう～	P88	例2・問2		
④ 点が動いたとき…? ～動点に関する問題を解こう！	P89	例3・問3		
⑤ 章の問題	P90～	A1・A2・A3・A4・ A5・A6・ B1・B2・B3・B4		

私の学習計画

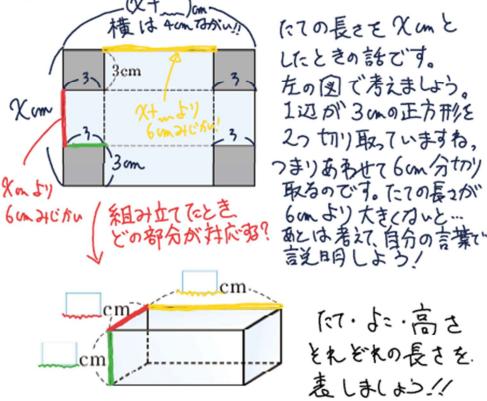
時間	日付と曜日（めやす）	学習する内容	達成度	一言振り返り
1	/ ()		%	
2	/ ()		%	
3	/ ()		%	
4	/ ()		%	
5	/ ()		%	

・学習計画を
立てる
・振り返る

③图形に関する問題を解こう～紙の長さを求めよう～

～本当に困ったときのお助けカード～

例2 なぜ $x > 6$ でなければならないのか

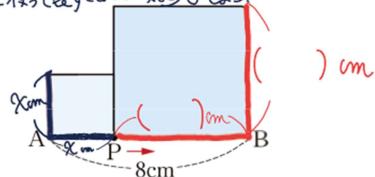


④图形に関する問題を解こう～紙の長さを求めよう～

～本当に困ったときのお助けカード～

問3

※デジタル教科書のシミュレーションは使って、
どんな動きなのか、確認してみよう！
2つの正方形について、それらの1辺の長さを
 x を使って表すことを始めましょう！

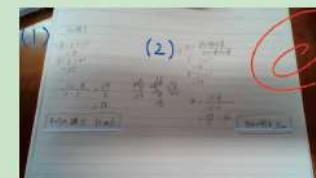


(書き出しの例です)
点Pが動いた距離APを x cm とすると、
PBは_____ cm となる。
正方形の面積の和が 36 cm^2 になることから
⇒あとは方程式を作り、解いていきます。

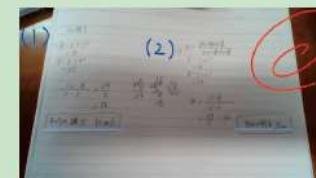
ラス問！

あるジェットコースターでは、斜面を下り始めてから x 秒間に進む距離を y m とするとき、 $y = 2x^2$ での関係が成り立つとします。このとき、次の問題に答えなさい。

(1) 斜面を下り始めてから 2 秒後から 4 秒後までの間の平均の速さを求めなさい。



(2) x の値が 2 から 4 まで増加するときの変化の割合を求めなさい。



ラス問！

あるジェットコースターでは、斜面を下り始めてから x 秒間に進む距離を y m とするとき、 $y = 2x^2$ での関係が成り立つとします。このとき、次の問題に答えなさい。

(1) 斜面を下り始めてから 2 秒後から 4 秒後までの間の平均の速さを求めなさい。

$$\frac{32-8}{4-2} = \frac{24}{2} \text{ 平均の速さ} \\ = 12 \text{ } 12 \text{ m/s}$$

(2) x の値が 2 から 4 まで増加するときの変化の割合を求めなさい。

$$\frac{32-8}{4-2} = \frac{24}{2} \text{ 変化の割合} \\ = 12$$

振り返りの例

学習計画

時間	日付と曜日	学習内容	達成度	一言振り返り
1	9/8 ()	P. 87～89 (問3まで)	10 %	まだよくわからないで できなかつた。
2	9/9 ()	章の問題集 A, B	30 %	だいぶよくわかっているけれど 少し理解するところが あきた。
3	9/10 ()	↓	50 %	チェックリストもよみうをもつ てこなができた。

3. 成果と課題

～成果～

- 指示がなくとも、どんどん学習を進める生徒が増えた。
- 以前ならば、全くわからず手出しせなかつた生徒も、友人を頼りに学習を進める姿が多く見られるようになった。
- 互いに「知識を出し合い、教え合う」が当たり前になった。

～課題と今後への提言～

- 取組を始める時期
- 見通しを持つことができる具体的な課題設定や学習の手立ての構築
- 学習計画の立て方
 - ・学習計画のスモールステップ化
 - ・一斉指導授業と自由進度学習の組み合わせ
- 生徒同士・教師と生徒の間の人間関係作り

〈参考・引用文献〉

- ・中学校学習指導要領解説総則編（平成29年告示）文部科学省
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 国立教育政策研究所
- ・令和7年度岩手県学校教育指導指針岩手県教育委員会
- ・西川純「『学び合い』ができる！今日からはじめる自由進度学習 学陽書房
- ・松崎大輔 中学校数学生徒の自律と自立を促す単元内自由進度学習 明治図書

4 令和7年度の実践

(4) 生徒アンケート(10月)より①

		(1)ペア学習、グループ学習、班学習など仲間と一緒に学習することは好きだ。	(2)授業では、新しい何かがわかったり、技能ができるようになつたと感じている。	(3)授業では、自分の考え方を相手にうまく伝えることができていると感じている。	(4)授業では、ほかの相手の考え方や作品を見て、自分の作品に取り入れたり、自分の考え方や広げられていると感じている。
1学年	積極的回答	90%	96%	77%	83%
	消極的回答	10%	4%	23%	17%
2学年	積極的回答	96%	96%	83%	96%
	消極的回答	4%	4%	17%	4%
3学年	積極的回答	91%	88%	72%	91%
	消極的回答	9%	12%	26%	9%

4 令和7年度の実践

(5) 生徒アンケート(10月)より②

「ペア学習、グループ学習などの協働的な学習について」

○生徒が感じているプラス面

- ・「安心 → 分かる → 広がる → 楽しい → やる気」 という好循環の形成
- ・発言しやすい心理的安全性、互いに教え合える環境、考えが深まる学びの広がり、学習意欲の向上など。

○生徒が感じているマイナス面

- ・発言しにくい環境：グループ内で意見を言いづらく、発言機会が少ない。
- ・騒がしくなる：グループ内で私語があり、学習に集中できなくなる。

5 成果と課題

「成果」

- ・生徒は協働的な学習に前向きに取り組んでおり、考えが深まっていると認知している生徒が増えている。
- ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す考えのもと、「個」→「協働」→「個」という学習の流れを意識して単元を組むことを各教科で意識して取り組んでいる。
- ・実践交流により、他教科の工夫を自分の教科の実践に生かしている。

「課題」

- ・研究主題に迫るために副題の設け方について
　　本校で目指したい生徒の姿（場面）の中で、特に力を入れて共通で取り組む内容を検討する。